

若浜の子ども



令和元年 6月11日 第2号

子どもの潜在能力を引き出す



5月8日、今年度最初の「いのちの日」の校長講話では、ピアニストの辻井伸行さんを取り上げました。辻井さんは皆さんご存じの通り生まれながらの全盲のピアニストです。

子ども達には、全盲というハンディに負けずに努力を重ねて、世界的なピアノのコンクールであるヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝したということを紹介しましたが、ここでは、違った角度から彼の成功について紹介いたします。

まず、伸行さんが全盲であるということがわかったときのお母さんのショック。「1日、1日生きていくので精一杯だった。」と言っています。また、「この子は私なしで生きていくことができないのではないか。」と言っていました。しかし、生後8ヶ月あたりに、ロシアのピアニストであるブーニンの演奏がお気に入り、脚を動かして喜ぶ反応を見て、伸行さんの聴覚の鋭さについて、お母さんは気づきました。その後、2歳6ヶ月にはお母さんの歌に合わせて、おもちゃのピアノで弾けるレパートリーは35曲になっていました。

伸行さんの才能をさらに伸ばしたのは、ピアノの先生である川上昌裕先生の指導法にもありました。楽譜が読めない、耳で聞いた音を覚えて弾く彼のスタイルに合わせて、通常左右両手で弾く曲を、右手の演奏と左手の演奏を分けて録音し、それぞれを聞かせて弾かせ、最後に両手で弾かせるという指導法です。難しい曲は、片手で引く部分をさらに分解して指導したとのことでした。



もちろん伸行さんの生まれながらの並外れた聴音能力があったからこそ、素晴らしいピアニストになったのですが、その秘められた能力に気づいたのはお母さんであり、聴音能力を生かした指導法を工夫したのは、川上先生です。いかに潜在的な力があったとしても、それを引き出すのは、環境や周囲の大人のかかわりです。若浜小学校の子ども達一人一人にも、まだ大人が気づかない力があることと思います。それを引き出すために、学校と家庭が手を取り合って子どもと向き合いたいと思います。

子どもの力を引き出すために普段の生活でできること

1 早寝・早起き・朝ご飯(ある程度の品数)、適度な運動

私が過去に担任したお子さんで、**生活リズムが乱れているのに文武両道という子はいません**。生活リズムで特に記憶に残っている子は、旅館の息子さんで、家が学校から遠く毎日30分程歩いて通学していた子です。家が旅館ですから、家族も早起きですし朝食のメニューもそれなりだったと思います。また、学校まで遠いので早起きせざるを得ませんし、毎日往復4km歩きます。意図しなくても良い生活リズム、良い食生活、適度な運動ができていたのだと思います。(余談ですが、その子はミニバスケのエースでもありました。)

逆に「遅寝、遅起き、朝ご飯抜き、運動不足」で、しっかり勉強ができて、気力(自信、根気、忍耐力)・体力のある子が育つだろうか?と想像してみれば、「**早寝、早起き、朝ご飯、適度な運動**」の**必要性**が当たり前のように思われますね。

2 子どもをよく見る

辻井伸行さんのお母さんは、伸行さんのピアノに対する反応から、伸行さんの音楽への**才能を感じ、信じました**。多様な人がいることで、社会が成立していることを考えれば、一人一人の特性や興味に違いがあることは当然ですし、社会が成立するために必要なことです。私は「**どの子ども何かの才能がある**」と考えます。才能は「**好きなことやこだわり**」の形になって表れてきます。それが人の迷惑にならないものである限り、見守り伸ばしてあげたいものです。

3 言葉の力を育む

脳科学の研究成果によれば、**9歳~11歳までの3年間は思考と発想の基本機能がつくられる「脳のゴールデン・エイジ」**だそうです。小学校の学習内容を見ても、確かに3年生から、抽象的な思考を要する学習が多くなります。このゴールデン・エイジで力を伸ばすことと切り離せないのは、言葉で考えたり伝えたりする力です。言葉の力を伸ばすためには、子どもの思いや考えを受けとめる家庭での会話、読み聞かせ、読書が大きな役割を果たします。日々忙しい生活ですが、**IT機器から離れ、言葉を大切にしたい落ち着いた時間を持ちたい**ですね。

ご家庭・地域の皆様ありがとうございます

5月28日に川崎市で、あってはならない惨事が発生しました。この日、本校では放課後にプール清掃があったため、職員が付き添いで下校させることが困難で、車でのパトロールしかできない状況でした。そのことを本間コミ振会長さんにご相談したところ、地域の方にお声かけいただき、下校の見守りにご協力いただくことができました。ありがとうございました。



若浜東部登校班

また、今回の事件にかかわらず、朝の登校時に集合場所で、お家の方が整列のご指導をなさっている地区もあります。朝のお忙しい時間にもかかわらずありがとうございます。

子どもの安全、学区の防犯は、いろいろな方からご協力いただくことで、より安心できるものになります。それぞれが動くことができる時間のお心遣いをこれからもお願いいたします。

命を守る安全教室



かくれるものがない所で頭を守る
ダンゴムシのポーズ

5月31日（金）山形大学大学院 教育実践研究科 教授 村山良之 先生をお迎えして、4年生以上の児童を対象にした“地震の被害と身の守り方”、教職員並びに地域の方を対象にした“防災組織と避難所開設”についての「命を守る安全教室」を開催しました。

村山先生から子ども達に出された宿題は以下の4つです。学習会に参加しなかった1年生から3年生のお子さまの家庭でも、ぜひ話し合ってください。

<命を守るための宿題>

- ① 家の中の家具をチェックする。(倒れないようにしているか)
- ② 津波が発生したときの2つの約束を決めておく。
・家族がそれぞれ逃げること ・家以外で家族が会う場所
- ③ 水道、電気、ガスが止まることを考えて、備えを家族で相談する。
- ④ 東日本大震災のときどうだったか家の人に聞く。



村山先生

若っ子の活躍



酒田市体育大会 陸上競技 5月12日

- 5年男子100M 第5位 5年 加賀屋 吉成 14秒97
- 男子1000M 第5位 6年 高力 直人 3分20秒87
- 男子走り高跳び 第6位 6年 今野 琉志 1m15
- 女子800M 第5位 5年 阿部 直央 2分49秒
- 女子走り高跳び 第1位 6年 佐藤 碧海 1m20

酒田市体育大会 水泳競技 5月26日

- 小学女子50m自由形 第1位 6年 石橋 結夏 30秒06
- 小学女子50mバタフライ 第1位 6年 石橋 結夏 31秒51
- 小学女子50m平泳ぎ 第6位 6年 伊藤 聡美 46秒60
- 小学女子メドレーリレー 第5位 長谷部、伊藤、石橋、堀 2分36秒12
- 小学女子フリーリレー 第5位 石橋、伊藤、堀、長谷部 2分20秒82

わんぱく相撲酒田場所 5月26日

- 2年生の部 第1位 前田 悠翔 第2位 渡部 愛斗 第3位 菅原 悠介
- 4年生の部 第2位 加藤 絢翔

※本校の出場児童数13名は、市内の学校で最多でした。(2年連続)

第44回少年少女卓球大会 4月27日

- カブ 男子の部 第3位 4年 高橋希晏

山形県選手権水泳競技大会 4月21日

- 女子200Mリレー 第2位 3年 石橋 由菜 2分13秒68

第45回東北ジュニア選手権水泳競技大会 5月12日

- 女子200Mフリーリレー10歳以下 第4位 3年 石橋 由菜 2分16秒58
- 女子50M背泳ぎ 11~12歳 第8位 6年 石橋 結夏 35秒60

第35回涼雨小学生バレーボール交流大会 5月3日

- 女子 第2位 若浜バレーボールスポーツ少年団

第5回 ティーボール酒田飽海地区大会 5月19日

- Bブロック 第1位 CJヤンキース